

第1回西成特区構想プロジェクトチーム会議記録

- 1 日時 平成24年2月15日(水)午後3時~4時
- 2 場所 市役所本庁舎5階大応接室
- 3 案件 西成特区構想プロジェクトチームの設置について
- 4 参加者 別紙のとおり
- 5 内容

<橋下市長>

これまでの行政の考え方で行くと、一部の地域だけに人も予算も力を入れる政策はどうなのかというところもあったと思うが、西成については政治の力といったものをしっかり注入して、この地域が変わるということをやっていきたいと思う。

西成の地域、特にあいりん地域、ここを大阪市役所が力を入れればしっかり変わるんだというところをまず示して、大阪全体のまちづくりにも活かしていきたいと思う。

これまで、各局それから区役所、各職員が一生懸命この西成、特にあいりん地域に関して、今まで力を入れてきた事は十分継続した上で、さらにお金も投入しながら、あいりんの地域というものを、少しずつというスピード感をもう少しあげて変えていくという事に挑戦していきたいと思う。あまり引き合いに出しても遠い話かもしれないが、ニューヨーク市のジュリアーノ市長が号令をかけて、行政がしっかり力を入れる事によって、「確かにニューヨークが変わったと言われるぐらいにまちが変わってきた」とよく報道で耳にする。

市役所が力を入れればあいりん地域が変わる事は間違いないと確信をしているので、全市一律の政策ということではないが、住民の声は僕が引き受けるので、思い切って知恵を注入して、そして今までにやってきた事のないチャレンジもどんどんやってもらい、このあいりん地域が変わったと言う事を、市民府民の皆さんに感じてもらえるように、頑張っていきたい。

現場を一番知っている西嶋区長に的確にまちの事情を汲み上げてもらい、一番効果的な政策を打ち込んで行ってもらいたいと思う。

<西嶋西成区長>

特区構想ということだが、法律上の特区ということではなく、事実上の特区的な発想で進めていくことで考えている。

プロジェクトメンバーには、これまで各局の事業としてあいりん地域をはじめ、西成区内の様々な課題に、それぞれの局で取り組みを進めてきていただいている方々に参画いただいた。

今回のプロジェクトでは、改めて住民に身近な区の立場からとりまとめていき、横断的また集中的な取り組みの中で、さらに抜本的に、スピードを持って西成区の課題の解消、活性化を進めていきたい。

スケジュールとして、平成24年度中からでも可能なものは取組んでいく。25年度から5年間程度を集中的に取り組んでいく期間と考えている。

まだアイデアを列挙した段階だが、西成特区構想に係るアイデア例を付けた。ここには記載されていないが、既に学習塾等へのバウチャー制度のように具体的な検討が進められているものもある。アイデアを並べるだけでなく、西成区をどう変えていくんだというストーリーを持たせることが必要と考えている。プロジェクトでこのアイデアについて、強弱をつけたり、つなぎ合わせたりしていく必要があると考えている。また、それぞれの事業を区内のどのエリアを対象に集中的にやるのか、どこまで区全体広げていくのかといったことも、このアイデアを具体化していく中で検討していく。

またプロジェクトでは、調査検討をまず進める。

データから西成区を見ると、やはり24区の中で一番高齢化率が高い、単身世帯が多い、生活保護が多いなどの際立った特徴がある。

不法投棄の量も一番、住宅に関しては空家率が高い、昭和45年以前の古い住宅が沢山残っているなど様々な課題も残っているし、結核の発生率も一番多い。

こういった事を踏まえた上で、アイデアを上手く結び付けながら、西成区の課題解消、活性化を進めていきたい。

あいりん地域の現状も、この数十年で大きく変わってきている。日雇い労働市場も平成元年、20年ほど前から言うと、需給が大分減少している状況がある。

生活保護受給者が増えてきている状況、簡易宿所が福祉アパートに転用されてきている状況がある一方で、バックパッカー、外国人の方や、若い方々が西成に来ている状況もある。

こういった新しい動きも踏まえて施策を考えていきたい。

今後、プロジェクトチームに幹事を指名させていただき、主なアイデアの各事項について精査し、そこからストーリーを組み立てる。

区の内外の方からたくさん意見をいただいている、期待感を持っている部分、課題だけが表に出て西成のイメージを悪くするんじゃないかというようなご意見、本当に賛成と反対の意見が両方出ている。

何れにしても、何か西成区が変わったと実感していただけることが本当に重要ではないかと思っているので、メンバーのご協力をよろしくお願いいたします。

<橋下市長>

西山理事と杉本局長、山本室長、しっかりと区長をサポートして欲しい。
行政的にはどういったスケジュール感、イメージはあるのか。

<西嶋西成区長>

アイデアについて個別に把握できてないので、実務レベルの幹事職員を早急に指名し、そこから進める。

具体の事業は1年かけて創意、検討していきたいと考えているが、可能なものについては24年度の本格予算に反映できる様な形をとれたらと考えている。

教育バウチャーなど、出来るものからさせていただこうと思う。

<橋下市長>

「子育て世帯を呼び込む」などを出したが、町の実態を見て優先すべき事項があれば、出したメッセージにとられることなく、ストーリーに仕立てて欲しい。

<西山政策企画室理事>

幹事の指名はどうするのか。

<西嶋西成区長>

市民局と政策企画室と相談させていただいて、指名の仕方は考える。

<橋下市長>

特区構想は今からだが、各局で今までしてきた事にプラスアルファで実施して欲しい。

<西嶋西成区長>

全市的なプロジェクトチームを作ったが、西成区でも特区構想検討委員会を設置した。上手くこのプロジェクトのメンバーと接点をもつ形でつないで進めさせていただく。

<橋下市長>

区役所からは、地域の様々な団体が力を発揮してくれているとの声を聞いている。そういった方々との情報交換やコミュニケーションの機会が必要です。

あいりん地域でこの間いろいろ施策が進んだのも、地域の声ともうまくつなぎあわされて、うまく支援できたものもたくさんある。地域の声などで出てきた声を聞いたうえで進めていきたい。

<北村計画調整局長>

何かカテゴリー毎に集まって、ワーキング的にやって行くといった指示をいただいたらと思う。カテ

ゴリーでは切れないような感じもするので、3つか4つぐらいに集約化していく作業がいるかと思う。

<西嶋西成区長>

幹事会のイメージは、部課長級の職員の方をお願いして、作業的な部分を進めるので、早急に指名させていただく。

作業の中で組み立てを考えながら、分科会的な所も作っていきたい。

<内本こども青少年局理事>

集中的にハードの部分で行く分と、全体的に全区を見てやっていく部分がある。必ずしも西成だけの問題じゃなくて、他にもたくさん同じような問題があったときに、出来るだけ全区に広げていくような事が出来るように、財源確保も含めてよろしくお願ひしたい。

<橋下市長>

府との関係はどうか。

<西山政策企画室理事>

統合本部と横のつながりを持って、情報交換しつつ行う。

<玉井環境局長>

不法投棄の問題が一番大きい。西成区が全市のほぼ4割ぐらいの不法投棄があり、西成区の不法投棄の8割ぐらいがあいりん地域である。

不法投棄の多い箇所に、抑止効果を狙って人感センサー付きのカメラを設置しようとする際にも、あいりん地域の方々がどういう受け止め方をされるのか分からない部分があり、慎重な対応になる場合も多い。根本的に解決するためには、不法駐輪や規制といった点では警察の協力をお願いしないと行政だけでは厳しい部分がある。

プロジェクトの進め方だが、自分の局の所管事務だけに関わらず、違う局の意見を取り入れていただくような場雰囲気も作って欲しい。

<西嶋西成区長>

頂いた意見を踏まえて幹事を指名させていただき、どういう組み立てをするか考えていきたい。

一つの局だけでなかなか解決できなかった課題もたくさんあると思うので、いろんな局なり地域なりと一緒にってというイメージで考えている。

<橋下市長>

都市の経営で色々研究しながら見てたときに、ごみ・治安・教育、感染症の問題に力入れてやらなきゃいけないと思ってる。

規制の話はどうなるのか。それはルールを作ると、ルールを適用するときに地元の人とハレーションというか、摩擦がおきるということか。

<玉井環境局長>

ハレーションというより、例えば不法投棄の抑止効果を狙ったカメラ設置を、あいりん地域の方々がどう捉えるか分からない、受け止められ方が分かりにくいといった部分がある。路上喫煙の問題に対して、既存の規制の型にはめてしまうと、より厳しい規制が必要になってくるかもしれないが、何かの抑止はこれからも積極的に打ちたいと思うし、そういったことに関わる職員の組織を作るとか、ひとつの手立てとして警察と連携するといったことも必要だと思う。

<永井教育長>

学校というのは環境・まちづくり全体の議論が進まないと、いわゆる子育て世帯がなかなか住んでいただきにくいという状況があるので、安心して子どもが育てられる、或いは学校に通わせるという状況を作っていくのが、一番インパクトが強いと思っている。教育委員会としても、これまでの考え方に捉われない新たな発想で色々議論させていただきたいと思っている。また、ここで得られたノウハウを全市的に応用できればと思っている。

<橋下市長>

ハード面は、都市整備局と建設局で何かこういうことをやればいいんじゃないかというような今の段階で何かあるか。

<西尾建設局長>

不法占拠の問題は、若干残っているが、いつかの時点で本当に適正な都市インフラの整備のためには、外科的な対応もでてくると覚悟しておく必要があると思う。その時のためにも、警察とは密接な連携を取っていくということが大事だと思う。

<平岡都市整備局長>

住宅というのは全体的なものの上に成り立っているもので、単に家を建てればいいというものではない。学校の問題、教育の問題、医療の問題、そういう全体の中で一緒に議論していかないとまくいかない。その中でも、特に民間のデベロッパがそこに住宅を建てる気になる、建ててもらえる、そういうようなものをめざしていくというのが一番の早道と思うので、そのへんのニーズ、それから何がインパクトになっていくのか、というようなところをしっかりと勉強していきたい。

<橋下市長>

データの中で新規着工の戸数が全市的に見ても、西成区は少ないが。

<平岡都市整備局長>

特に西成区は非常に少ない。

<橋下市長>

新規着工の戸数はわかりやすい指標なのかなと思う。

<平岡都市整備局長>

全体の問題なので難しいが、個々の問題が解決しないとできないということではないので、その中でできるものからやっていくことをハード・ソフトの中で並行してやっていかないといけない。

<橋下市長>

バックパッカーが入ってきていることを宣伝して、どんどん呼び込んでいくことと、地域のまちづくりと、これはどうなのか。

<野々村ゆとりとみどり振興局長>

外国人の方がすごく増えている。外国人宿泊客が、2004年から2010年までで6倍ぐらいに増えている。トータルで言うと近年では年間10万人くらいかと。これを倍ぐらいにできれば、また活性化するのではないかとということで、「集客プラン支援事業」で、コンベンション協会と大阪商工会議所と大阪市の認定事業として、地域がネットで、こういうところに非常に安いゲストハウスがありますよとか、パンフレットを作ったりし、その一部経費を支援してきたが、もっとPRに力を入れていけば、かなり多くの方に来てもらえるのではないかと考えている。

<橋下市長>

それは、地域の人材は歓迎なのか。

<西嶋西成区長>

地域には、大学などに入ってもらったり、観光チームのようなかたちでいろいろサポートしてもらったりしている。バックパッカーが入ってきてあいらんの近くに泊まるが、ただ泊まるだけというような状況があるので、地域でもいろいろ、西成区内を回遊していただけるようなことも進めていただいている。

<橋下市長>

何万人をめざすのか。

<野々村ゆとりとみどり振興局長>

今、震災の関係で一時落ち込んだが、また回復しているので10万人ぐらい、それを倍ぐらいに。外国の方が10万人程度、日本人のビジネス客などが、現在でも30万人ぐらいいるということなので、トータル40万人ぐらい。それが倍ぐらいになればかなり活性化するのではないかと思っている。

<橋下市長>

そういう意味では経済活性化策というところまではならないのか。

<魚井経済局長>

特に商店会との関係。西成区は33の商店会がある。

空き店舗率も市内の平均より割と高い。空き店舗を活用して、子育てのそういう施策の部分につなげていく、コミュニティビジネスといったことに発展できるし、NPOとの連携とかも含めて、商店会全体で集中的にやっていくようなことも、色々各局と連携しながらやっていけると思っている。

<橋下市長>

バックパッカーも含めて外国人が増えてきたときに、何かそういうところを狙ってもらうとかいうのも、あるのかもしれない。

<魚井経済局長>

商店会への誘導とかも含めてやっていけると思う。

<西嶋西成区長>

誘導板とか案内板を外国語にしてほしいなどの具体的な話もある。

<魚井経済局長>

外国人観光客の受入促進については、商店街への支援事業でも現在やっているもので、もっと集中して西成に投下することもあり得る。

<橋下市長>

ソウルでは、もうサイン板をすぐに英語化したりしている。特に集中して、サインを外国語にするのもよい。

<魚井経済局長>

23年度事業でやっているが、西成からは商店会でやりたいというふうに手があがってきていない

のでその辺りからできればと考えている。

<橋下市長>

実際、外国人の若い学生たちが、たくさん利用しているという報道を見ているから、ちょっと集中してやりたい。

結核対策はこの間も案は見せてもらったんですけども。

<壺阪健康福祉局長>

感染症対策については、保健所を中心にやっているが、もう一段上の対応をやっていきたいと思っている。

健康福祉局関連で言えば、社会医療センター病院をどうしていくのかという問題、年末対策で西成警察と一緒にセットでやっている越年対策の問題がある。

<橋下市長>

結核対策では、今までの半減を、次また半減というのは大変なことだと思うが、そこはお願いする。

管財局や税務で特に課題というのは考えられていることはあるか。

<古屋税務総長>

税金の場合、公平であるということが一番強く求められる分野なので、整理が大事と考えている。

例えば住宅の新築のときに3年ないし5年間の、2分の1減額するというのは法律で制度があるが、西成だけは0にするなどの何か具体的な目的のためという理由が公平との関係で必要。

<高橋契約管財局長>

未利用地が西成区の場合が 118 件ということで、件数が一番多い。相続税路線価ベースで、180億円くらいということで金額的にもかなり大きなもの。

定期借地権付きの賃貸施策に従って、スキームを考えようと思っているが、はたしてそういう仕組みを作って、定借で賃貸事業をやってもらえる事業者がいるのかどうか、施策ごとに勉強しながら、具体的に進めていきたいと思う。

<北村計画調整局長>

建築指導部に、「老朽化して倒壊の恐れがある空き家がある、自分のところへ倒れ掛かってくるのではないかと、除却して欲しい」と言う相談が結構ある。そのためにはまず、所有者を特定する必要があるが、公開されている情報の中で検索しても持ち主が分からないケースが多い。行政情報の、いわゆる個人情報に属する部分まで検索する資格・権限が与えられてないので限界がある。たとえば持主を特定するような権限を、市長や区長が持つという特区もあり得ると思う。

<西嶋西成区長>

空き家の関係では区でもあまり情報がなく、確かに持主が公開されている情報からでは分からないところもある。空き家の状態で置かれていることによる、環境の悪化みたいなものもあるので、そのあたりを進めていくことで、全体のレベルアップができると思う。

<橋下市長>

それでは、そこは行政的にしっかり詰めてもらわなければいけないと思うが、府税も一緒になって免除すると松井知事の確約はもう取っているのです。

昨日も別のことで大阪府とは協議をしたが、基本的には「乗ります」ということで言っていたている。

あとはもう税務総長が言われたようなところの視点を考えていただいて、ただ特区の話をやるときにあまりにも複雑な精緻な話にしてしまうと、国の国際戦略総合特区みたいに、もう本当に特区か、というようなことになっても効果がないので、そこはしっかり知恵を出していただきたい。

<西嶋西成区長>

よろしいでしょうか。ご質問がなければ、これをもちまして本日のプロジェクトチームの方は終了させていただきます。今後ともよろしくお願いします。

<橋下市長>

お疲れ様でした。頑張ってください。

(終了)